

平成25年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

常盤小学校

児童数

210

平均値

	種目別平均								
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ポール投げ	体力合計点
男子	14.65	19.21	32.59	39.19	45.74	9.53	140.22	22.07	50.45
大阪市	16.45	19.14	32.01	38.22	47.80	9.38	149.19	23.45	52.26
全国	16.63	19.54	32.74	41.41	51.41	9.38	152.07	23.19	53.87
女子	15.15	18.29	32.81	35.81	33.93	9.86	131.18	12.42	50.05
大阪市	16.00	17.41	36.30	35.86	36.32	9.65	140.82	14.06	52.84
全国	16.14	18.06	36.87	39.06	39.66	9.64	144.55	13.94	54.70

結果の概要

- ・男子では上体起こし、長座体前屈、反復横とびが大阪市平均を上回っている。
- ・男子では全国平均と比べて体力合計点では約3、5点のひらきがある。
- ・女子では上体起こしのみ大阪市平均を上回った。
- ・女子では全国平均と比べて体力合計点で約4、5点のひらきがある。
- ・男女とも全国平均と比べて全種目でひらきがある。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- ・パワーアップタイムとして時間割に組み込み運動の習慣化を図ってきた。その結果、男子では大阪市平均を3種目上回り、女子では1種目上回る結果となった。他の種目についても、その差が縮まってきている。
- ・今後も子どもたちの運動への意欲の喚起を高めるためパワーアップタイムを継続して実施し、その内容も検討を加えながら取り組んでいかねばならない。
- ・体力得点クロス集計より「朝食を毎日食べる」「1日の睡眠時間が8時間以上」と答えた児童のほうが体力合計得点が高い傾向が見られるため、家庭と連携した取り組みも考えていく必要がある。

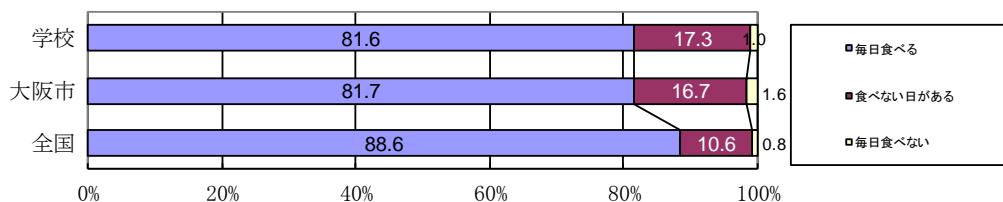
小学校男子 基本的生活習慣・運動のきっかけ

結果の概要

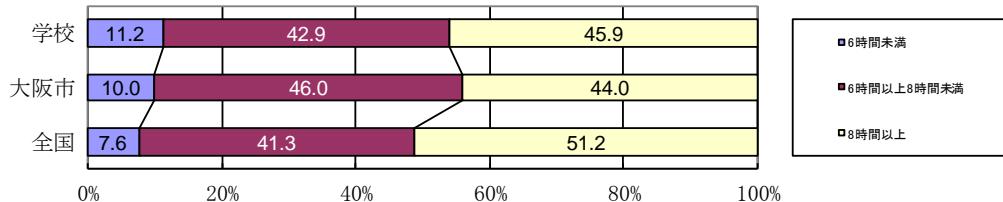
- 朝食を「毎日食べる」男子児童は81.6%で、「毎日食べない」男子児童は1.6%であった。
- 「朝食を食べますか」の問い合わせにほぼ大阪市平均と同じ傾向を示している。
- 1日の睡眠時間が「8時間以上」の男子児童は45.9%、一方「6時間未満」の男子児童は11.2%であった。
- 「1日の睡眠時間」もほぼ大阪市平均と同じ傾向を示している。

質問番号	質問事項
------	------

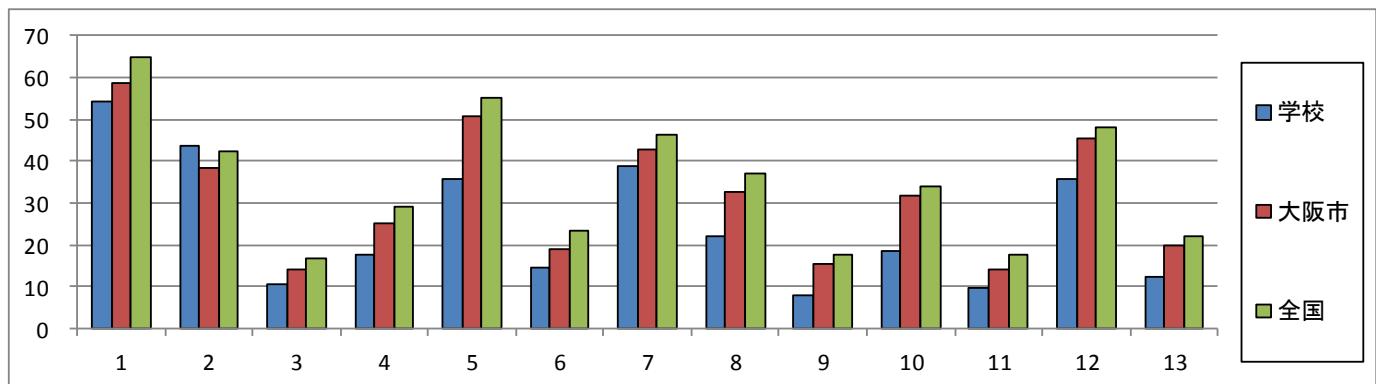
9	朝食は食べますか
---	----------



10	1日の睡眠時間
----	---------



12	今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。
----	--



成果と課題

- ・朝食喫食率は高い傾向を示しているが、約20%弱が食べない、食べない日もあると回答しているため、さらなる取組が必要である。睡眠時間についても見直す必要がある。
- ・運動のきっかけとして、自分が好きな種目、できそうな種目が50%を超えており、運動との多彩な出会いが運動の意欲となりえるため、取組を進める必要がある。

今後の取組

- ・クロス集計より「朝食を毎日食べる」「8時間以上の睡眠時間」の児童は体力合計点が高い傾向にあるため、家庭との連携も含めて考えていく必要がある。
- ・運動のきっかけとしてスポーツ等で活躍している人との出会いも高い傾向を示しているため外部人材も活用していく必要がある。

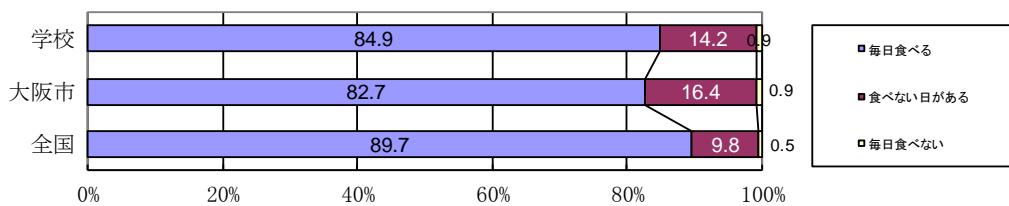
小学校女子 基本的生活習慣・運動のきっかけ

結果の概要

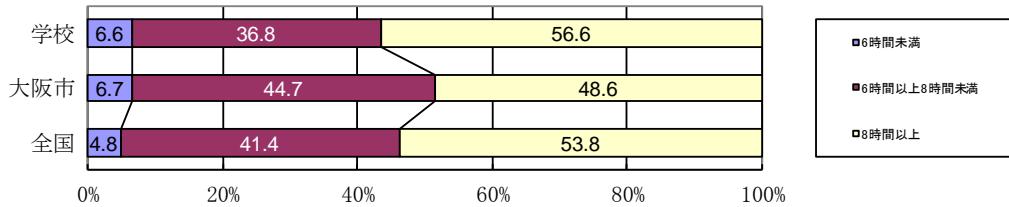
- 朝食を「毎日食べる」女子児童は84.9%で、「毎日食べない」女子児童は0.9%であった。
- 「朝食を食べますか」の問い合わせにほぼ大阪市平均と同じ傾向を示している。
- 1日の睡眠時間が「8時間以上」の女子児童は56.6%で全国平均よりも高かった。一方「6時間未満」の女子児童は6.6%であった。

質問番号	質問事項
------	------

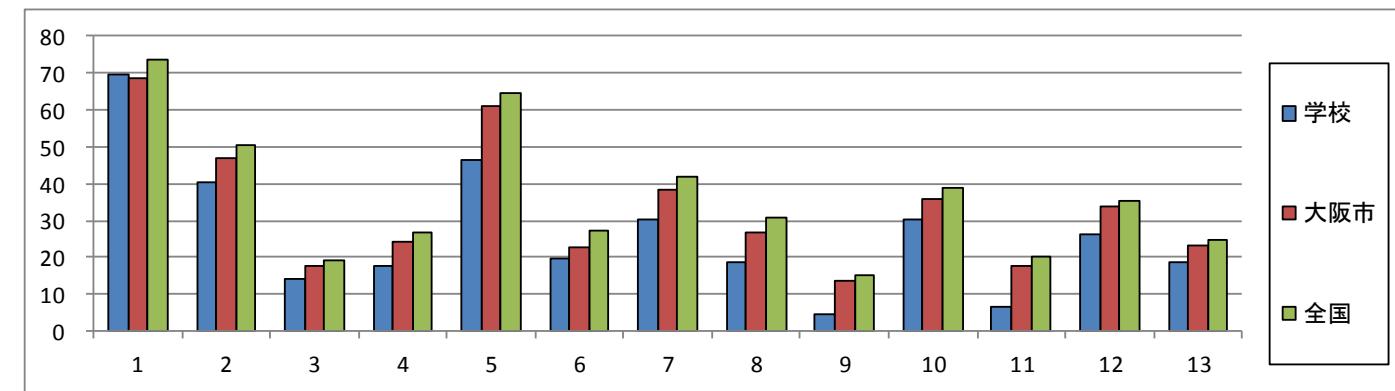
9
朝食は食べますか



10
1日の睡眠時間



12
今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。



成果と課題

- ・朝食喫食率は高い率をしめしている。とりわけ毎日食べないと回答した児童はわずか0.9%であった。
- ・8時間以上の睡眠をとっている児童は大阪市平均、全国平均とくらべても高い率を示している。
- ・運動のきっかけとして好きな種目、できそうな種目があればという回答はほぼ70%を示し、運動に対して高い意欲を感じられる。

今後の取組

- ・クロス集計より毎日朝食をとる、8時間以上の睡眠をとる児童は体力合計点が高い傾向を示している。生活習慣と関係があるため家庭にも啓発していかねばならない。
- ・運動のきっかけとして友だちといっしょにできたらという回答が50%近くを示している。運動との出会いも工夫していく必要がある。

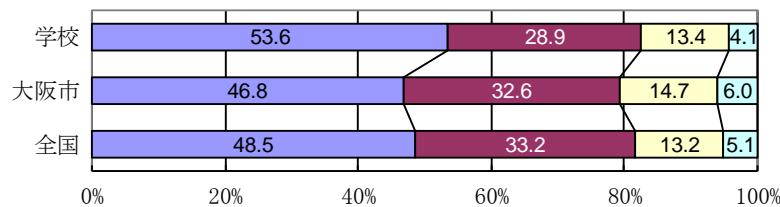
小学校男子 運動・スポーツに対する意識

結果の概要

- 「運動やスポーツをすることは得意ですか」の問い合わせに得意と答えた児童は全国平均・大阪市平均も上回る53.6%を示している。
- 小学校1・2のころ運動やスポーツをすることが得意だった53.6%、好きだった60.8%と回答した児童は全国平均・大阪市平均と比べて高い率を示している。

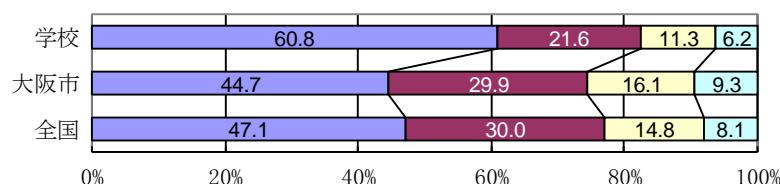
質問番号	質問事項
------	------

13	運動やスポーツをすることは得意ですか
----	--------------------



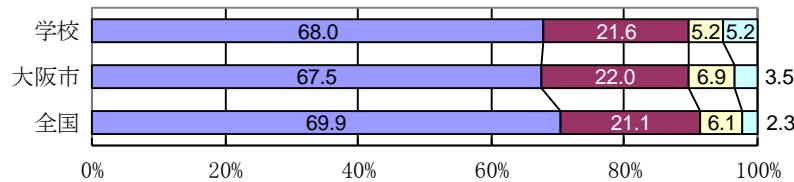
■得意
■やや得意
□やや苦手
□苦手

26	小学校1, 2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか
----	---



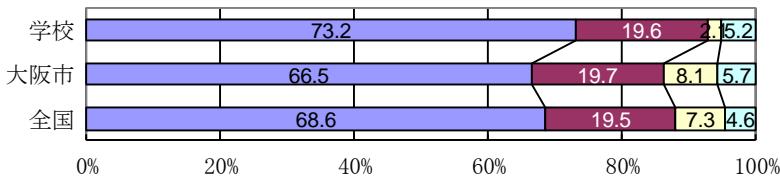
■得意だった
■やや得意だった
□やや苦手だった
□苦手だった

14	運動やスポーツをすることは好きですか
----	--------------------



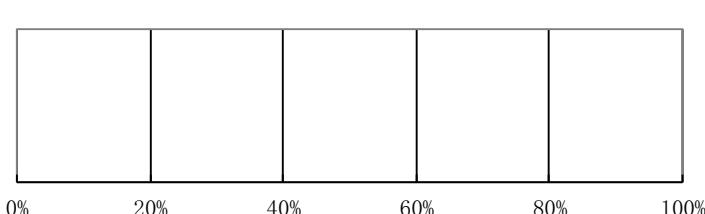
■好き
■やや好き
□やや苦手
□苦手

27	小学校1, 2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか
----	---



■好きだった
■やや好きだった
□やや苦手だった
□苦手だった

--	--



□ □ □ □ □

成果と課題

- パワーアップタイムを設定し運動の習慣化に取り組んできているため、「運動がスポーツをすることが好きですか」の「好き」と答えた児童は大阪市平均・全国平均と比べても変わらない率をしめしている。
- 1・2年の頃、運動が「好き」「得意だった」と答えた児童は、5年生になってもその率はあまり落ち込まることなく高い数値を示している。

今後の取組

- クロス集計より「1・2年のころ運動が好き・得意だった」と答えた児童は体力合計点が高い傾向を示しているため運動好きの子どもを育てるためにも、低学年から継続的に運動の機会を設定していかねばならない。

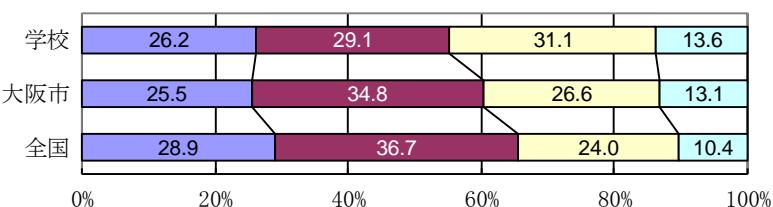
小学校女子 運動・スポーツに対する意識

結果の概要

- 「運動やスポーツをすることは得意ですか」の問い合わせに得意と答えた児童は全国平均・大阪市平均も上回る53.6%を示している。
- 小学校1・2のころ運動やスポーツをすることが得意だった53.6%、好きだった60.8%と回答した児童は全国平均・大阪市平均と比べて高い率を示している。

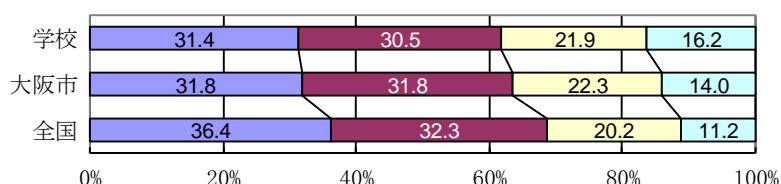
質問番号	質問事項
------	------

13	運動やスポーツをすることは得意ですか
----	--------------------



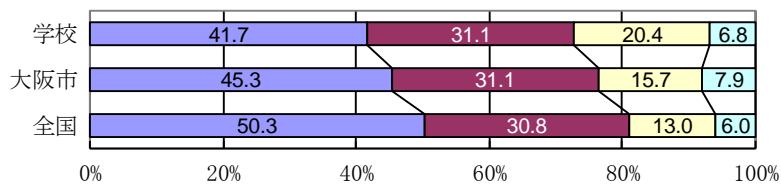
■得意
■やや得意
■やや苦手
■苦手

26	小学校1, 2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか
----	---



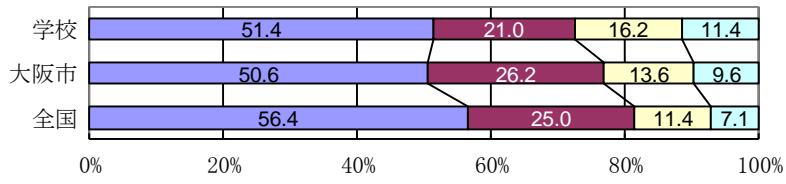
■得意だった
■やや得意だった
■やや苦手だった
■苦手だった

14	運動やスポーツをすることは好きですか
----	--------------------



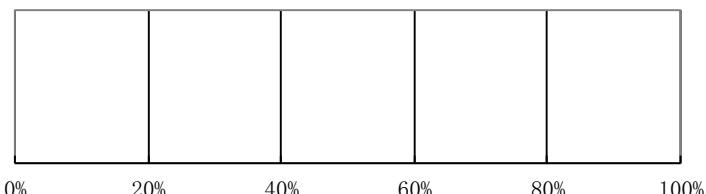
■好き
■やや好き
■やや苦手
■苦手

27	小学校1, 2年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか
----	---



■好きだった
■やや好きだった
■やや苦手だった
■苦手だった

--	--



■好き
■やや好き
■やや苦手
■苦手

成果と課題

- 「運動がスポーツをすることが好きですか」の問い合わせに「好き」と答えた児童は全国平均と比べて少しひらきがある。
- 「運動がスポーツをすることが得意ですか」の問い合わせに「得意」と答えた児童は全国平均とほぼ同じ傾向を示している。
- 1・2年の頃、運動が「好き」「得意だった」と答えた児童は、5年生になるとその率が大きく下がっている。数値を示している。

今後の取組

- クロス集計より「1・2年のころ運動が好き・得意だった」と答えた児童は体力合計点が高い傾向を示しているため低学年のころより運動に慣れ親しむよう取組を進めていく必要がある。さらに、高学年になっても「運動が好き」という気持ちを持続させるような継続した取り組みをする必要がある。